



郷土資料館 館内展示

登別市指定文化財

ひのあいき 日野愛憲著『明治二年以降片倉家移住顛末』

明治2年、いまの宮城県白石市から伊達藩片倉家の主従が登別に移住。明治維新の混乱の中、厳しい自然に立ち向かい困難な開拓が始まりました。

この著書は移住後24年間の出来事をまとめた登別の貴重な開拓記録です。

著者の日野愛憲は、代々片倉家の家老を務めた日野家に生まれ、登別開拓のリーダーとして活躍しました。幌別村・鷺別村の戸長を歴任したほか、カルルス温泉の発見者としても知られています。
(平成5年登別市指定文化財指定)



くろさわ けしりょう 黒澤家資料

「黒澤家史料」は、明治3年に宮城県白石市から登別に移住した仙台藩白石城主片倉家の家臣黒澤家に代々伝わる古文書で、登別の開拓の祖である片倉家の歴史や江戸時代の武家社会を知る上で貴重な史料です。

伊達政宗の重臣・片倉小十郎景綱の活躍を記録した「黒澤家本景綱記」や、武士の辞令や身分証明書にあたる「知行目録」など33点からなる武家文書です。
(平成10年登別市指定文化財指定)



郷土資料館収蔵資料 (平成14年3月末現在)

資料区分	資料点数
考古・民族	467点
美術	114点
民俗・産業・林業・漁業	1,965点
歴史文書	900点
その他	915点
収蔵総数	4,361点



昔の住まい

今では見られない囲炉裏や生まれたばかりの赤ん坊を入れる嬰兒籠などが置かれ、大正から昭和の初めころの住まいを再現しています。

太古コーナー

4万年前のクッタラ火山噴火によりトドマツが炭化した炭化木や市内で出土した石器、土器などを展示しています。



片倉家コーナー

入植当時の様子がわかる資料や生活用品、甲冑などを展示しています。

知里家ゆかりの人々コーナー

『アイヌ神謡集』を書き残し19歳で夭折した知里幸恵や郷土が誇る言語学者知里真志保などの写真やパネルを多数展示しています。



このほかにも、コーナーがたくさんあります。